

2021年度 城南学園中学校・高等学校 学校評価のまとめ

1 自己評価

(1) 組織 学校評価委員会（校長、高校教頭、中学校教頭、事務局長、学校評価委員会担当教諭）

(2) 開催 2022年3月7日（月）

(3) 評価のために使用した資料

① 2021年度学校教育診断の結果（概要は資料1）

・実施：2021年12月

・対象：中学校・高等学校の全生徒、在校生の全保護者、全常勤教員

② 生徒による授業評価の結果

・第1回：2021年7月

・第2回：2021年12月

③ その他

・「2021年度 教育の基本方針と取り組みの重点」（資料2）、校内各組織の総括（目標の達成状況）、生徒収容状況、進路決定状況、出席統計、部活動入部状況・活動実績等

(4) 内容

① 上記資料をもとに、年度当初に教職員に示した「教育の基本方針と取り組みの重点」（学校教育目標）について自己評価を行った。（下表）

② 自己評価に基づき学校関係者評価委員会の資料を作成した。

(5) 自己評価の結果（3月末時点で修正）

目標と取り組みの重点（P）	取り組みの状況（D）	自己評価（C）
1 学校の全体像に関わって		
① 10年先を見通した学校の将来像について検討する。	①次年度からの高校コース再編の詳細を煮詰める。 総合的な探究の時間の内容充実を図るため、プロジェクトチームを中心に検討。 観点別評価について議論を深めた。	①前進した
②新しい学習指導要領に合わせた高校におけるコース再編成を早急に進める。	②再編したコースの特性に合わせた新たな教育課程を策定。 再編したコースの特性を踏まえ、総合的な探究の時間の内容について検討。	②概ね達成した
③特進コース∞、進学スタンダードコース内スポーツ探究ゾーン・キャリア探究ゾーンの、完成年度に向けてのスムーズな運営に努める。	③特進コース∞の3年次における英数授業の特進コースI星との分離授業の導入を決定。 進学スタンダードコース内のスポーツ探究ゾーン、キャリア探究ゾーンにおける総合的な探究の時間の新たな取り組みを実施（年次進行）。	③前進した
④建学の精神を踏まえ、校内各組	④中学校の「10×10プラン」の実施。	④前進した

<p>織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みの充実に努める。</p> <p>⑤一人一台タブレット導入とともに、ICT教育の一層の効果的な指導方法を研究し、実施に努める。同時に業務の改善を図る。</p> <p>⑥生徒の健康と安全、学業との両立、働き方改革等の観点から部活動のあり方を検討する。</p>	<p>各コース、学年の当初目標に「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を掲げ、取り組みを進めた。</p> <p>校長による全教諭、常勤講師との面談時に「育てたい生徒像」の聞き取りを行う。</p> <p>⑤一人一台タブレットの導入を完了。タブレット活用、ICT教育における著作権問題、AI教材に関する研修会を実施。コロナ禍におけるオンライン授業の実施。教育プラットフォーム（クラッシー）の活用（生徒・保護者連絡、生徒・保護者アンケート等）。タブレット活用により、会議資料のペーパーレス化を進める。</p> <p>⑥「学校の部活動に係る活動方針」を概ね策定するものの、公表には至らず。</p>	<p>⑤概ね達成した</p> <p>⑥前進できず</p>
<p>2 学力の向上と進路実現100%をめざす (評価指標) 模試の結果向上 進路実現率前年度以上</p> <p>①言語活動の充実など授業の改革を進めるため、教科における研究活動を活性化し、研究授業や相互の授業参観を組織的に行う。</p> <p>②観点別評価についての研究を進め、最適化を図る。</p> <p>③新学習指導要領の研究とその具体化を進める。</p> <p>④英語教育の改善・充実について検討し、実施に努める。</p>	<p>模試の結果、教科、コース等で分析行った。中学校、高校特進系はベネッセの方にも分析を仰いでいる。 進路実現率は98.8% (昨年度比+0.3ポイント)</p> <p>①各教科が研究授業を実施。期間を設定して相互の授業参観を行った。</p> <p>②教務部が舵取り役を務め、教科との議論を深めることにより評価法を決定し、教務内規を改訂。</p> <p>③各教科で研究を深める。新学習指導要領に基づく新たな教育課程を策定。</p> <p>④ネイティブによるスピーキングテストを考査ごとに実施。オンライン英会話を希望者に実施。中学校において、英会話を英語Bの授業に組み込み、通常英語授業と連動させた。英検講習に中学生も参加できるよう、対象を拡大した。コロナ禍においてニュージーランド語学研修が実施できないため、河内長野セミナーハウスにて代替行事を企画。</p>	<p>学力向上はコースで差がある 進路実現率は達成した</p> <p>①前進した</p> <p>②概ね達成した</p> <p>③概ね達成した</p> <p>④概ね達成した</p>

<p>⑤生徒の体験的な学びの機会と学習成果の発表の場を拡充する。そのため学園内外の教育機関・施設等との連携をさらに深める。</p> <p>⑥基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導に努める。</p> <p>⑦3年間の進路指導計画に基づき、進路指導部・学年・コースが連携して1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。</p> <p>⑧中高六年一貫教育の強化に努める。</p> <p>⑨国公立大学と関関同立の合格者10名(実数)以上、大阪総合保育大学への進学者5名以上、大阪城南女子短期大学への進学者60名以上をめざす。また、特進コース看護系生徒の希望進路の実現に努める。</p>	<p>⑤中学校の「10×10プラン」、総合的な学習の時間等。 特進系コースのアカデミア、英語暗唱弁論大会等。 幼児教育・福祉コースの保育・福祉の発表会の実施。 進学スタンダードコースの「進スタセミナー」等。 学園内及び近畿大学、帝塚山大学、森ノ宮医療大学、東住吉森本病院等との連携。 全体として、コロナ禍の中、例年通りには実施できないものが多くあった。</p> <p>⑥学習時間調査を実施。 手帳、教育プラットフォームの活用(中学校、幼児許育・福祉コース、進学スタンダードコース)。</p> <p>⑦当初の指導計画通りに実施した。</p> <p>⑧中学校会議に高校特進系コース教員が参加、高校特進系コースの会議に中学校教員が参加することにより相互理解を深めた。</p> <p>⑨国公立大学と関関同立に9名(実数)が合格。 大阪総合保育大学には3名合格3名進学、大阪城南女子短期大学へは61名が進学した。 特進コース看護系は全員進路決定(全員が医療看護系)。学校全体で看護系大学・学部13名、看護系短大に3名、看護系専門学校に8名が合格した。</p>	<p>⑤前進した</p> <p>⑥前進した</p> <p>⑦前進した</p> <p>⑧前進した</p> <p>⑨やや前進した</p>
<p>3 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底 (評価指標) 学校教育診断の結果80%以上 欠席・遅刻率の低下</p> <p>①朝の読書活動の充実と活性化を図り、自ら学ぶ姿勢を育成するとともに読解力・表現力の向上にも資する。</p> <p>②年間重点目標として「挨拶」を掲げ、全教職員で指導すること</p>	<p>学校教育診断の結果 「校則を守り、規則正しく生活している」 中学生71%、高校生73%、教員59% 中学生保護者86%、高校生保護者86% 欠席・遅刻率 中学生は欠席率やや改善、遅刻率改善 高校生は欠席率悪化、遅刻率やや悪化</p> <p>①一年を通じて「朝の読書」を実施。 年5回の読書週間には全校でビブリオバトルに取り組んだ。</p> <p>②生徒指導部が中心となり、朝の挨拶を実施。 定期的に全教職員で登下校指導等を実施。</p>	<p>保護者は達成 生徒・教員は達成できなかった 欠席率、遅刻率は高校で達成できず</p> <p>①前進した</p> <p>②やや前進した</p>

<p>により、生徒の自発的な挨拶を促す。授業規律、服装、欠席・遅刻、交通マナー、ネットマナー等の指導を組織的に進め、基本的な生活習慣と社会人としてのマナーの確立を図る。特に欠席・遅刻の減少に努める。</p> <p>③学校行事における生徒の主体的取り組みを促進する。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など生徒の自主的な活動を、新型コロナウイルス対策を十分に講じたうえで促進する。</p>	<p>全校全校生徒にネットマナー、薬物乱用防止について外部講師を招き指導。 学年と生徒指導部で欠席・遅刻指導。</p> <p>③コロナ禍の中、例年通りに実施できないものがあった。 学校教育診断での関連項目（「学校行事は、みんな楽しく行えるよう工夫している」、「本校の自治会活動は活発である」「本校の部活動は活発である」）は概ね向上。 (部活動参加率) 中学校 91% (昨年度比+7ポイント) 高校 53% (昨年度比+5ポイント)</p> <p>(中学校の部活動) テニス部が全国大会で個人、団体いずれも優勝。体操部が全国大会で個人2位、団体3位。バレーボール部が全国大会でベスト8。 (高校の部活動) テニス部が全国大会で優勝。体操部が全国大会に出場。ソフトテニス部、バレーボール部、ダンス部が近畿大会に出場。</p>	<p>③前進した</p>
<p>4 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上 (評価指標) 学校教育診断の結果 80%以上 授業評価アンケートの結果</p> <p>①各教科で授業評価アンケートの結果も活用して授業の充実・改善に努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。</p> <p>②すべての教育活動を通じて人権に関する教育の充実を図る。教育を受ける権利の保障、人権が尊重された教育を進めるために、特に、いじめの未然防止に努める。面談などを通じて生徒の状況把握に努め、相談等に丁寧に対応することで生徒と教員の距離を縮める。</p> <p>③体罰、ハラスメントの根絶に向</p>	<p>学校教育診断の結果 「授業内容に満足している」 中学生82%、高校生78% 「入学してよかった」「入学させてよかった」 中学生81%、高校生79% 中学生保護者91%、高校生保護者91%</p> <p>①授業評価アンケートの結果は昨年度に比べて向上した。 結果は教科にフィードバックした。</p> <p>②3年間の計画に基づき、人権HR、人権教育映画、人権講話などを実施。 年3回の定期面談、いじめに関するアンケート調査を実施、いじめ防止対策委員会の開催等でいじめの防止に努めた。 学校教育診断の結果は、中学生、高校生ともに昨年度より大きく向上した。</p> <p>③改正労働施策総合推進法について再度説明、</p>	<p>概ね達成</p> <p>①前進した</p> <p>②概ね達成した</p> <p>③前進した</p>

<p>けた取り組みを徹底する。</p> <p>④生徒の特性を理解し、生徒の声に耳を傾け、双方向的対話の中から生徒の能動的な学校生活を支援する。</p> <p>⑤様々な方法で保護者への情報提供に努め、保護者からの相談等に丁寧に対応することで連携を深める。</p>	<p>注意喚起を行うとともに、体罰、ハラスメントの根絶について全職員で共有を図った。</p> <p>④生徒指導部が具体的な指導の中で、「傾聴」を心掛け、部員を中心に教員全体に意思統一を図った。</p> <p>⑤教育プラットフォーム、学年だより、HP、年2回の懇談会など。 学校教育診断での関連項目（「学校は、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」「学校は、保護者の相談に快く応じている」）は昨年度より向上。</p>	<p>④前進した</p> <p>⑤概ね達成した</p>
<p>5 中学校50名、高等学校230名の定員充足</p> <p>①広報活動の「見える化」を図る。</p> <p>②中学校及び高校各コースの取り組みを積極的に広報するとともに、学習成果の発表の場の公開に努める。また、生徒募集に有効な新たな取り組みを実行に移す。</p> <p>③部活動において、他との交わりを深め生徒募集に繋げる。</p> <p>④中学生の内部進学率の向上に努める。</p> <p>⑤入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に全教職員一人一人が意識して広報活動を推進する。また、広報活動への生徒の参画を一層促進する。</p>	<p>中学校26名、高校118名が入学予定</p> <p>①中学校訪問、塾訪問の報告書を全教員で共有。</p> <p>②生徒の学習成果の発表を兼ねた「保育フェスタ」、「コース説明会」を実施。高校の募集対策として、SNSによる発信を強化。 HPのリニューアルを行う。 サイネージを設置。</p> <p>③小学生、中学生を招いての試合、合同練習を実施。 部活動顧問による部活動奨学生制度をすべての部に拡大。</p> <p>④担任以外の教員も生徒と面談を行った。 29名中18名（62%）が内部進学（昨年度72%）</p> <p>⑤外部相談会において他教員の協力を仰いだ。 校内で開催する募集イベントへの生徒参加を強化。 募集イベントで、ダンス部の協力を得た。 外部イベントで、幼児教育・福祉コース生徒の協力を得た。</p>	<p>中学校・高校とも達成できず</p> <p>①前進した</p> <p>②前進した</p> <p>③前進した</p> <p>④前進できず</p> <p>⑤前進した</p>

2 学校関係者評価

- (1) 組織 学校関係者評価委員会
構成（敬称略）

大阪城南女子短期大学長・西川仁志〈委員長〉
城南学園小学校長・山北浩之
保護者会代表・阪口めぐみ
同窓会代表・新里陽子
地域代表・早苗順一

学校委員（校長、高校教頭、中学校教頭、事務局長、学校評価委員会担当教諭）

(2) 開催 2022年3月18日（金）

(3) 評価のために使用した資料

自己評価の結果及び学校評価委員会で使用した資料、学校関係者評価委員会設置要綱

(4) 内容

- ① 校長及び高校教頭、中学校教頭から、「2021年度 教育の基本方針と取り組みの重点」に沿って、自己評価の結果を報告し、質疑応答と協議を行った。
- ② 協議の内容を事務局で取りまとめた。（主な協議の内容は資料3）

3 今後の改善方策（A）

1 学校教育目標のマネジメントサイクルの推進

- 自己評価及び学校関係者評価の結果等をもとに、新年度の学校教育目標である「教育の基本方針と取り組みの重点」を策定し、年度当初に教職員に周知する。
- 学校教育目標を踏まえ、校内各組織が年度目標と実施計画を作成して取り組みを進める。
- 10月末にその進捗状況、2月末に達成状況の報告を求め、それを受けて年度末に学校教育目標の自己評価を行う。このマネジメントサイクルを効果的に運用することにより、高いレベルでの目標の達成をめざす。

2 主要教育課題に対する取り組み

(1) 学校の全体（未来）像に関わって

- ①長期的な学校の将来像とともに中期計画について検討する。
- ②高校において新しい学習指導要領実施に合わせて再編成したコース体制を軌道に乗せる。
- ③建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みを一層充実する。
- ④一人一台タブレットを活かした教育を推進する。
- ⑤生徒の健康と安全、学業との両立、働き方改革の視点に基づく「学校の部活動に係る活動方針」を公表する。

(2) 学力の向上と進路実現100%をめざす

- ①研究授業や相互の授業参観を組織的に行い、教科における研究活動を活性化する。
- ②高校における新学習指導要領の導入にあわせた授業の充実に努める。
- ③適切な観点別評価を導入し、生徒の学習意欲を高める。
- ④英語教育の更なる改善・充実に努める。
- ⑤学園内外の教育機関・施設との連携によって拡充してきた生徒の体験的な学びを円滑に進めるとともに、学習成果の発表の機会を充実する。
- ⑥基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じた指導を一層充実させる。
- ⑦進路指導部と学年、コースが一層緊密に連携して、1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。
- ⑧引き続き数値目標を掲げて学力の向上に取り組む。併せて目標達成のための具体的方策を検討し実施する。

(3) 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底

- ①朝の読書の徹底により、読書活動の活性化を図る。
- ②引き続き年間目標を掲げて全校で取り組む。欠席・遅刻については学年で数値目標を掲げて減少に努める。
- ③学校行事の企画段階への生徒の参画を一層進め、生徒の主体的取り組みを促す。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など生徒の自主的な活動を新型コロナウイルス対策を十分に講じたうえで促進する。

(4) 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上

- ①授業評価アンケートの結果を教科、当該教員にフィードバックすることで授業の充実改善に努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。
- ②すべての教育活動を通じて人権教育を一層推進する。特に、面談やアンケート調査などによって生徒の状況を把握し、いじめの未然防止と早期発見に努める。また、生徒の相談に丁寧に応じることで生徒と教員の距離を縮める。
- ③体罰、ハラスメントの根絶を目指す。
- ④生徒の声に耳を傾け、双方向的な対話の中から能動的な学校生活を支援する。
- ⑤様々な方法で保護者への情報提供に努め、保護者からの相談に丁寧に対応することで、教育方針や教育内容への理解を図る。

(5) 中学校及び高等学校の定員充足

- ①広報活動の「見える化」を図る。
- ②中学校および高校各コースの取り組みの広報と、学習成果発表の場の公開を一層推進する。また、効果的な生徒募集の取り組みについて検討し実施する。
- ③部活動において、他との交わりを深め、生徒募集に繋げる。
- ④全校を挙げて内部進学率の向上に取り組むとともに、内部進学を促進する制度面の検討を行う。
- ⑤入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に、全教職員による広報活動を一層推進する。また、広報活動への生徒の参画を一層促進する。

4 参考資料

(資料1)

学校教育診断票の結果について

城南未来委員会

昨年12月に実施いたしました「学校教育診断票」の結果について概略を報告いたします。

【データの回収】

生徒501名、保護者489名よりデータを回収しました。特に保護者の皆様には95%近くの間答をいただき、より信頼度の高いデータにすることができました。ご協力ありがとうございました。

【保護者データ】

肯定意見（「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせた意見、以下同様）が、すべての設問で80%以上と高い評価をいただきました。最も気になる設問「入学させて良かった」の91%をはじめ、「学習の評価は適切である」等、4設問で中学校・高校とも90%以上の肯定意見をいただきました。

高い評価をいただいた中、「先生はいろいろな問題を見逃さず対応している」の設問は肯定意見が80%はあるものの、若干少ない傾向でした。今後、改善できるよう努めて参ります。

【生徒データ】

高校では学年やコースによって評価にばらつきがあるものの、肯定意見の平均が80%に達しました。全体としては「学習の評価は適切である」、「本校の部活動は、活発である」の88%をはじめ、「生徒の進路・適正などに応じたカリキュラムになっている」や「人権について学ぶ機会が多い」等、

8設問で肯定意見が80%を越えています。特に「生徒の相談に丁寧に応じている」では、81%の肯定意見があり、昨年度より8ポイント向上しました。

中学校では、「学習の評価は適切である」や「人権について学ぶ機会が多い」、「本校の部活動は、活発である」の96%をはじめ、「本校には、他校と異なる城南学園らしい特色や良さがある」、「学校行事は、みんなが楽しく行えるように工夫している」等、10設問で肯定意見が90%以上となり、「生徒の進路・適正などに応じたカリキュラムになっている」、「学校は、進路に関する情報を適切に提供するなど、生徒の進路実現に積極的に取り組んでいる」等、6設問で80%台の肯定意見でした。

評価が高くない設問もいくつかありました。中高ともに、生徒指導関係の設問において肯定意見の少ない傾向が見られました。

今回の「学校教育診断票」で得られた結果を学年・校務分掌・コースなど各部門で慎重に検討し、また過年度のデータを照合しながら、生徒の動向把握に全教員で努めて参ります。そして、より高い信頼を得られる教育活動の推進と教育環境の整備に力を注いで参ります。

保護者の皆様におかれましては、本校のこの姿勢にご理解をいただき、今後も変わらぬご協力をお願い致します。

(2022年2月発行の校報『城南第83号』より転載)

(資料2)

2021年度 教育の基本方針と取り組みの重点

2021年4月6日

学校長

I はじめに

学校教育の目標は、生徒が将来、社会人として自らの使命を果たし、自らの幸福を実現できるよう、その基盤となる学力と健康な心身、さらには真に自立的な態度を育成するところにある。これは、本校創立者の設立の思いである「社会で活躍できる女性の育成」という言葉に集約される。本校の建学の精神である「自主自律」「清和気品」は、教育目標を達成するための具体的な指針である。われわれの教育活動が成果を上げるためには、本校の特色を鮮明にして全教職員が同じ教育目標「社会で活躍できる女性の育成」を共有することが重要である。よって本年度の基本方針と取り組みの重点を次のとおり策定する。

II 基本方針と目標

1. 将来、一人ひとりが社会的使命を果たせる生徒の育成を図る。そのため、中学校においては「10×10プラン」を一層推進する。高校においては各コースの特性を全面的に生かして多様な生徒に対応した教育を実践し、学力の向上と進路実現100%をめざす。
2. 生徒にとって生涯の基軸となる、よき生活習慣を身につけさせる。そのため「自主自律」の態度を育成するとともに、「清和気品」のマナーを徹底させる。
3. 教職員が相互に高め合う職場づくりを進め、授業の充実改善に努める。また、明るい学校づくりに取り組み、生徒・保護者の「学校満足度」を向上させる。
4. 全教職員が一丸となって広報・募集活動を推進し、中学校及び高等学校の定員充足をめざす。

III 取り組みの重点

1. 学校の全体像に関わって

- (1) 10年先を見通した学校の将来像について検討する。
- (2) 新しい学習指導要領に合わせた高校におけるコース再編成を早急に進める。
- (3) 特進コース∞、進学スタンダードコース内スポーツ探究ゾーン・キャリア探究ゾーンの、完成年度に向けてのスムーズな運営に努める。
- (4) 建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みの充実^に努める。
- (5) 一人一台タブレット導入とともに、ICT教育の一層の効果的な指導方法を研究し、実施に努める。同時に業務の改善を図る。

(6) 生徒の健康と安全、学業との両立、働き方改革等の観点から部活動のあり方を検討する。

2. 学力の向上と進路実現100%をめざす

- (1) 言語活動の充実など授業の改革を進めるため、教科における研究活動を活性化し、研究授業や相互の授業参観を組織的に行う。
- (2) 観点別評価についての研究を進め、最適化を図る。
- (3) 新学習指導要領の研究とその具体化を進める。
- (4) 英語教育の改善・充実について検討し、実施に努める。
- (5) 生徒の体験的な学びの機会と学習成果の発表の場を拡充する。そのため学園内外の教育機関・施設等との連携を深める。
- (6) 基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導に努める。
- (7) 3年間の進路指導計画に基づき、進路指導部・学年・コースが連携して1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。
- (8) 中高六年一貫教育の強化に努める。
- (9) 国公立大学と関関同立の合格者10名（実数）以上、大阪総合保育大学への進学者5名以上、大阪城南女子短期大学への進学者60名以上をめざす。また、特進コース看護系生徒の希望進路の実現に努める。

3. 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底

- (1) 朝の読書活動の充実と活性化を図り、自ら学ぶ姿勢を育成するとともに読解力・表現力の向上にも資する。
- (2) 年間重点目標として「挨拶」を掲げ、全教職員で指導することにより、生徒の自発的な挨拶を促す。授業規律、服装、欠席・遅刻、交通マナー、ネットマナー等の指導を組織的に進め、基本的な生活習慣と社会人としてのマナーの確立を図る。特に欠席・遅刻の減少に努める。
- (3) 学校行事における生徒の主体的な取り組みを促進する。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など生徒の自主的な活動を、新型コロナウイルス対策を十分に講じたうえで促進する。

4. 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上

- (1) 各教科で授業評価アンケートの結果も活用して授業の充実・改善に努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。
- (2) すべての教育活動を通じて人権に関する教育の充実を図る。教育を受ける権利の保障、人権が尊重された教育を進めるために、特に、いじめの未然防止に努める。面談などを通じて生徒の状況把握に努め、相談等に丁寧に対応することで生徒と教員の距離を縮める。
- (3) 体罰、ハラスメントの根絶に向けた取り組みを徹底する。
- (4) 生徒の特性を理解し、生徒の声に耳を傾け、双方向的対話の中から生徒の能動的な学校生活を支援する。
- (5) 様々な方法で保護者への情報提供に努め、保護者からの相談等に丁寧に対応することで連携を深める。

5. 中学校及び高等学校の定員充足

- (1) 広報活動の「見える化」を図る。
- (2) 中学校及び高校各コースの取り組みを積極的に広報するとともに、学習成果の発表の場の公開に努める。また、生徒募集に有効な新たな取り組みを実行に移す。
- (3) 部活動において、他との交わりを深め、生徒募集に繋げる。
- (4) 中学生の内部進学率の向上に努める。
- (5) 入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に全教職員一人一人が意識して広報活動を推進する。また、広報活動への生徒の参画を一層促進する。

(資料3)

コロナ禍の中、やれるべき行事等をやれるべき形態で実施し、また、「傾聴」を合い言葉に、教員が生徒に寄り添い、双方向的なやりとりによる指導の結果が、生徒・保護者の高い学校評価に結びついたのでろう、という評価をいただいた。

そのような指導の下、校訓の一部である「清和気品」を体現するような、他者に不快な気分を与えないマナーの良い気品ある女生徒が確実に育っているとの声もいただいた。実際、部活動の大会などにおいても他校の保護者から、「城南の生徒は雰囲気が良い」との声が出ているとのことである。保護者代表からは、「保護者の声を聞き、すぐに対応してもらえるので感謝している。」、「ICT教育に執着し過ぎず、ペーパーでの取り組みもあるため、コミュニケーション能力や考える力が身につけているように感じる。」との言葉も頂戴した。

ただ、教育活動におけるそれらの高評価が生徒募集に結びついていないのが残念であるとのこと指摘もいただいた。同時に、少子化、共学志向という外的な要因があるにせよ、良質な教育活動をバックボーンにして、生徒増に向けて頑張ってもらいたいとの励ましの声も頂戴した。そして、教育・経営マネジメントを、中高単体ではなく、総合学園として考えていくべき時代であるとのアドバイスもいただいた。